

# 日本 VR 学会論文誌論文執筆ガイドライン

人工 太郎<sup>\*1</sup>      現実 花子<sup>\*2</sup>

## Guidelines for Writing Papers for VRSJ Transaction

Taro Jinko<sup>\*1</sup> and Hanako Genjitsu<sup>\*2</sup>

**Abstract** – This paper describes guidelines for writing papers for VRSJ Transaction. Detailed instructions on font size and styles of all elements in the paper, including headers and footnotes, paper title and authors, section and subsection headings, and reference list. Some specific notes for respectively review and final papers are also stated. All papers submitted for VRSJ Transaction are expected to follow these guidelines: it is very important for the aesthetic consistency of papers through a volume that each author strictly follows the guidelines. This document also serves as a sample document that provides authors a concrete appearance of formatted pages.

**Keywords** : format and style, guideline, VRSJ transaction, virtual reality

### 1 はじめに

本稿では日本 VR 学会論文誌に投稿する際の論文のスタイルおよび書式について説明する。この論文誌が対象とする分野・領域、論文のカテゴリなどについては投稿規程 [1] を、投稿の手続きについては投稿の手引き [2] を参照していただきたい。なお、査読の方法・手順については論文委員会規程 [3] に記述されている。査読はシングルブラインド（著者の情報が査読者に見える状態）で行われる。したがって、査読用の原稿においても著者の氏名や所属、著者自身による関連研究の参考文献などが漏れなく記述されている必要がある。

以下、2 章では論文の構成と記述の形式およびスタイルについて、3 章では図表などの要素の作成の注意について述べる。これらは論文誌として誌面の統一感を得るための重要な事項であり遵守していただきたい。カメラレディ原稿（印刷用原稿）では印刷結果の再現性や品質の観点から原稿作成の過程で配慮が必要であり、これらにかかる注意点について 4 章で述べる。

### 2 ページの構成

#### 2.1 用紙と余白

用紙は A4 サイズとし、左右の余白はそれぞれ 20mm、上下の余白は 20mm および 24mm とする。したがって、テキスト領域は幅 170mm 高さ 253mm となる。タイトルページ（1 ページ目）の左上の余白には論文カテ

ゴリ名（付録 A.1 参照）（明朝体 14 ポイント・下線）を記述する。ショートペーパーの場合には、サブカテゴリを基礎・応用・コンテンツの中から選択し、「ショートペーパー（基礎）」のように括弧付きで表示する。次ページ以降は、偶数ページには上の余白中央に誌名（ゴシック体 7 ポイント）、巻号・発行年（Times-Roman Bold 7 ポイント）を「日本バーチャルリアリティ学会論文誌 Vol.12, No.1, 2007」の形式で、奇数ページには同じく上の余白中央に和文著者姓および和文論文題目（ゴシック体 7 ポイント）を「佐藤・鈴木： に関する研究」の形式で記述する。なお、著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを挙げて「佐藤他」などとして良い。また、和文論文題目が長く 1 行に収まらない場合には簡略化した題目を記述する。

#### 2.2 論文タイトル

タイトルページには、テキスト領域には本文に先立ち、和文論文題目（ゴシック体 17 ポイント）、和文著者氏名（明朝体 14 ポイント）、英文論文題目（Times-Roman Bold 10 ポイント）、英文著者氏名（Times-Roman 10 ポイント）、英文アブストラクト（Times-Roman Bold 10 ポイント）、英文キーワード（Times-Roman Bold 10 ポイント）を記述する。英文アブストラクトは 100 語程度、英文キーワードは 5 個程度とする。これらはページの左右中央に幅 145mm の領域に収まるように配置する。また、項目の間には適当なスペースを挿入する。一方、ページの左下に脚注として、和文著者所属（明朝体 7 ポイント）および英文著者所属（Times-Roman 7 ポイント）を記述し、和文著者氏名および英文著者氏名に脚注記号をつけて参照する。

<sup>\*1</sup>バーチャル大学

<sup>\*2</sup>リアリティ研究所

<sup>\*1</sup>Virtual University

<sup>\*2</sup>Reality Research Institute

### 2.3 本文

上述の論文題目から英文キーワードの記述のあと適当なスペースを空けて本文およびを記述する。本文はテキスト領域に2段組で記述する。段の間隔は10mmとする。したがって、1つの段の幅は80mmとなる。本文は必要に応じて章および節に区切って記述する。なお、各論文を章とみなし、論文の中の区切りを節とする流儀もあり、それに従っても構わない。その場合は以下の説明で章を節、節を小節と読み替えていただきたい。章の見出しは章番号および章題目(ゴシック体10ポイント・中央配置)を「2 背景と目的」の形式で記述する。また、この前後には適当なスペースを挿入する。一方、節の見出しは章節番号および節題目(ゴシック体10ポイント・左揃え)を「2.1 従来の研究」の形式で記述する。項番号および項題目などさらに細かい区切りの形式については著者の判断で決めてよい。タイトルに続いて文章段落(明朝体10ポイント・インデント)を開始する。段落頭のインデントは1文字程度とする。句読点は「、。」または「,」のいずれかに統一する。

### 2.4 謝辞

必要に応じて、本文の後に謝辞を記述することができる。謝辞の見出しは章題目と同様のスタイル(ゴシック体10ポイント・中央配置)で「謝辞」と記述する。ただし、章番号はつけない。文章段落は本文と同じスタイルとする。

所属機関等の倫理委員会の承認を得て実施された研究については、その旨を明記する。また、競争的資金等により実施された研究で謝辞の記述を求められている場合も、ここに記述する。

### 2.5 参考文献リスト

本文に続いて参考文献のリストを記述する。参考文献リストの見出しは章題目と同様のスタイル(ゴシック体10ポイント・中央配置)で「参考文献」と記述する。ただし、章番号はつけない。文献の各項目は先頭に参照番号(Times-Roman 10ポイント)、を角括弧をつけて表示する。それに続く個々の文献情報(明朝体9ポイントまたはTimes-Roman 9ポイント)は参照に必要な十分な内容を記述する(たとえば、論文誌や予稿集は[4, 5, 6, 7]、著書であれば[8, 9])。姓名の記法や誌名巻号の略記法など形式について厳密な指定はしないが、リストの中では統一がとれていることが望ましい。

### 2.6 付録

必要に応じて、謝辞の後に付録を記述することができる。付録の見出しは本文の章節と同様の形式とするが、見出しは「A 付録」とする。

### 2.7 受付日

受付年月日(Times-Roman Bold およびゴシック体10ポイント)を「(2007年3月27日受付)」の形式で記述する。なお、査読原稿の段階では有効な日付を記入する必要はない。

### 2.8 著者紹介

著者紹介の見出しは(明朝体10ポイント・中央配置)で「[著者紹介]」とする。個々の著者について、左寄せで著者氏名(ゴシック体10ポイント)および会員・学生会員・非会員の別(明朝体10ポイント)を記述し、その下に左寄せで顔写真(幅15mm高さ20mm)、その右に略歴(明朝体9ポイント)を記述する。なお、ショートペーパーにおいては、著者紹介を省略してもよい。

## 3 図表と参照

### 3.1 図表

図表は対象とするものやことを分かり易く説明するための手段であり、積極的に活用したい。図表を使用するかどうかの判断は、同様の内容を文章で説明した場合と比較して誌面を節約できるかどうかということが一つの目安である。

図は線画・写真とも十分に鮮明なものを扱い、図中の文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさとする。和文表題(ゴシック体9ポイント)と英文表題(Times-Roman 9ポイント)を図の下につける。和文表題の形式は「図1 システム構成」、英文表題の形式は「Fig.1 Configuration of system」とする(図1参照)。必要に応じて2つの段を通した図を用いてよい。

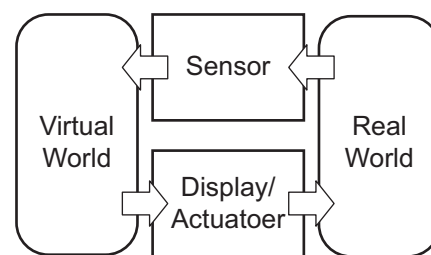


図1 システム構成

Fig. 1 Configuration of system

表についても、文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさとする。和文表題(ゴシック体9ポイント)と英文表題(Times-Roman 9ポイント)を表の上につける。和文表題の形式は「表1 精度と時間」、英文表題の形式は「Table.1 Accuracy and time」とする(表1参照)。表についても必要に応じて2つの段を通したものをを用いてよい。

表 1 精度と時間

Table 1 Accuracy and time

subject	accuracy [mm]	time [ms]
s1	23	538
s2	36	375
s3	21	412
s4	15	736

### 3.2 参照

参考文献および図表は本文中で必ず参照されなければならない。参考文献は参照番号を用いて「[4]」の形式で参照する。同様に図表はそれぞれ「図 1」「表 1」の形式で参照する。

## 4 カメラレディ原稿作成の注意

紙媒体の論文誌ではモノクロ印刷となるので、その場合でも視認性に問題がないことを確認すること。とくに写真のコントラストやグラフの線の区別などが読者に混乱を与えないように配慮する。極端に細い線は印刷されない場合がある。電子原稿 (PDF) の作成では図表の解像度が 600dpi 以上となるように、また、フォントはすべて埋め込む設定を使用する。

### 謝辞

日本 VR 学会の会員各位および論文誌への投稿者各位に感謝する。本研究は 研究費 (課題番号 ) の助成を受けたものである。なお、本研究は 大学 学部倫理委員会の承認 (承認番号 ) をうけて、実施されたものである。

### 参考文献

- [1] 日本 VR 学会論文投稿規程:  
<http://www.vrsj.org/monograph/rule.html#kitei>
- [2] 日本 VR 学会論文投稿の手引き:  
<http://www.vrsj.org/monograph/manual.html>
- [3] 日本 VR 学会論文委員会規程:  
<http://www.vrsj.org/about/rule2.html#ronbun>
- [4] 著者 1, 著者 2: パーチャルリアリティに関する研究; 論文誌, 巻 (号), 始頁-終頁 (発行年. 月)
- [5] Author1, Author2: A study on Virtual Reality; Journal Name, vol(no), page-page (year.month)
- [6] 著者 1, 著者 2: パーチャルリアリティ環境の評価; 学会大会, 始頁-終頁 (発行年. 月)
- [7] Author1, Author2: Evaluation of Virtual Reality Environment; Conference Name, page-page (year.month)
- [8] 著者 1, 著者 2, 編者 (編): パーチャルリアリティの本; 出版, 所在地 (発行年. 月)
- [9] Author1, Author2, Editor (Ed.): A book of Virtual Reality; Publisher, Address (year.month)

## A 付録

### A.1 投稿カテゴリ

本論文誌の投稿カテゴリは次の 5 つのいずれかとする。以下、投稿規程 [1] より抜粋。

#### 基礎論文

標準 6 ページ、原則 10 ページまで。バーチャルリアリティに関する理論、システム設計、評価手法、人間科学等の知見に関する新たな提案。

#### 応用論文

標準 6 ページ、原則 10 ページまで。バーチャルリアリティの応用 (産業応用、医療応用等) に重点をおきながら、新しい概念や技術を提案するもの。

#### コンテンツ論文

標準 6 ページ、原則 10 ページまで。バーチャルリアリティをメディアとして用いた表現内容に関する新しい提案 (アート、エンタテインメント、ビジネス等)。

#### 総説論文

標準 6 ページ、原則 10 ページまで。新たな観点のもとにバーチャルリアリティに関する知見を整理したもの (レビューペーパー、チュートリアルペーパー等)。

#### ショートペーパー

標準 2 ページ、4 ページまで。バーチャルリアリティにおける基礎、応用、コンテンツに関する速報的な論文。

(2009 年 5 月 14 日受付)

### [ 著者紹介 ]

#### 人工 太郎 (正会員)



19XX 年 大学大学院 研究科修了。19XX 年パーチャル大学 学科助手、20XX 年 同学科講師、現在に至る。人工現実感および感覚情報提示に関する研究に従事。博士 ( )。

#### 現実 花子 (正会員)



19XX 年 大学大学院 研究科修了、同年リアリティ研究所研究員、現在に至る。認知心理および感覚受容に関する研究に従事。博士 ( )。